

令和3年度 第1回豊橋市総合教育会議議事録要録

令和3年6月23日 開 催

豊橋市教育委員会

第1回 総合教育会議	
日時	令和3年6月23日(水) 午後3時00分～4時00分
場所	市役所東館4階 政策会議室
構成員	浅井 由崇 市長 山西 正泰 教育長 中島 美奈子 教育委員 渡辺 嘉郎 教育委員 内浦 有美 教育委員 西島 豊 教育委員
事務局	杉浦 康夫 副市長 種井 直樹 教育部長 浅倉 淳志 教育政策課長 中村 三木也 学校教育課長 ほか 7名
その他	傍聴人 3名

議事日程

協議事項

- 1 学校の働き方改革を踏まえた部活動改革
～持続可能な中学校部活動運営の実現に向けて～

その他

- 1 今後の協議事項について

連絡事項

次回開催日程 令和3年8月18日(水) 15:00～

(教育部長)

ただいまから令和3年度第1回豊橋市総合教育会議を開催させていただきます。協議事項は、学校の働き方改革を踏まえた部活動改革についてです。

協議事項

1 学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について

■学校教育課長 協議事項について資料説明

(教育部長)

それでは、ただいまの説明に対するご意見をお伺いしたいと思います。よろしくお願いたします。

(渡辺委員)

資料の中では、部活動の活動時間と活動日を変更することのメリットが示されていますが、子どもたちにとってデメリットとなる部分は何かありますか。

(学校教育課長)

部活動が減ることで自由時間が増え、やる事がなくなる子が増えると思われれます。土曜日も含め、そうした子の居場所がなくならないよう検討する必要があります。

(渡辺委員)

デメリットをよく整理し、改善して行ってほしいと思います。部活動の代わりとして、地域のスポーツが活性化したり、のびるん de スクールのようなものがうまく機能したりすると思います。中学でのびるん de スクールをやるには人手の面でなかなか難しそうですが。

(学校教育課長)

子どもたちの選択の幅を広げられるよう考えたいと思います。

(渡辺委員)

ところで、参考資料にある生徒の運動や生活に関する実態調査の結果から、豊橋の子どもたちはよく運動しているようですが、体力テストの結果は、全国と比較してよくありませんでした。部活動の時間が減ることで子どもたちの運動能力が余計に落ちてしまうことがないように気をつけなくてはなりません。

話を戻しますが、部活動の時間が減ることで、子どもと同様に教員にとってのデメリットは何かありませんか。

(学校教育課長)

教員の中には、部活動に力を入れている者もいますが、全体として教員にとってのデメリットはないと考えています。

(教育長)

教員の本来の業務として、教科の研究に努めるべきです。

ところで、現在、教員には残業手当はなく、約 50 年前にできた制度ですが、教職調整額というものがついており、当時の月平均残業時間 8 時間に基づいて算出された金額になっています。よって、本来、月 8 時間の残業が妥当なところであると考えれば、月 80 時間にまで増えてしまった残業をこの基準まで減らさなくてはなりません。

(渡辺委員)

50 年前は部活動の状況が大きく違い、先生の指示で子どもたちだけで活動ができたりもしましたが、今はそういうわけにもいきません。だんだん増えてしまった教員の負担は確かに減らさなくてははいけません、それで子どもたちの運動の機会が大幅に減ることになってはいけないと思います。管理など難しいかと思いますが、工夫して運動のチャンスを作っていく必要があると思います。

(教育長)

部活動がなくなると運動の機会は大幅に減ることになるでしょうか。

(学校教育課長)

昔と比べ、部活動のない時間や土日でのクラブ活動などの機会は確実に増えています。

(渡辺委員)

学校で工夫する一方で、地域の受け皿も強化する必要があります。

(中島委員)

地域の関係性の希薄化や教員の働き方に関する声が上がっている今こそ、今回の部活動についてのデメリットをメリットに変えるチャンスが来ていると思います。部活動が運動の機会のすべてというわけではないですし、地域との連携を強化していくことを考えると、例えば、豊橋西高校がやっているジュニアコーチングに倣って中学生が小学校ののびるん de スクールに教えに行く活動を行えば、お互いの居場所にもなっていくですし、指導の経験から教育者が増える原点にもなっていくのではと思います。

(教育長)

今、国の方で全国的に部活動指導員の配置の動きがありますが、とても数が足りると思えません。また、心配なことは、プレーヤーとしての経験から子どもの発達段階に配慮しない指導などをしてしまうと子どもが体を壊してしまうというリスクがあります。

(渡辺委員)

アスリートは必ずしも健康ではありません。スポーツは体を作る反面、体を壊すものです。今年は、オリンピックもありますが、勝つことだけを目標にしてしまうと体を壊してしまいます。子どもの頃に、特に成長期に運動をしすぎるとその後、腰痛に苦しむことがあります。子どもが体を壊すことがないように、そういったことをよく理解した人に指導してほしいと思います。また、最近、さまざまなトレーナーの資格が増えていますが、働き場所がないと聞きます。そのような人たちの受け皿も必要ですので、ちゃんと資格を持った人をのびるん de スクールや地域スポーツクラブなどで活用できるといいと思います。

(市長)

渡辺委員のおっしゃるとおりです。外部人材の活用が重要であることと、子どもの心と体を育て、運動を好きになり、嫌いにならない教育が大切です。子どもの将来のために、長い目で見て勝利至上主義にならないようにしてほしいと思います。

(教育長)

小学校の部活動と中学校の朝練を廃止する際には、医師会にも子どもたちの体への影響について相談させていただきましたが、勝利至上主義の指導により、過度な運動によって女の子が無月経になることがあるといます。中学校で一時的に優勝できたとしても、将来的には大きなマイナスになることもあります。

また、部活動は本来、自主的なものであるべきです。与えられた時間の中でやれることをやり、成果を上げるならばいいですが、さらに多くの時間を使っていくことは間違いではないかと思っています。

(渡辺委員)

教育現場がやりがいのある職場になって、先生たちには活躍していただきたいと思います。時間的な制約は大きなストレスですので、残業の時間を短くすることは大切です。残業が減った分、本業のための勉強の時間や教養を身につけたりスキルを磨いたりする時間を大切にできるといいと思います。

(西島委員)

より質の高い教育を提供することが教員の本業である中、今回の改革では、時間外を削減しても月 18 時間は超過してしまうということですので、今後さらにプラスの取り組みが必要であり、業務の効率化や合理化をしていかななくてはなりません。

今までのお話で出たメリットとデメリットを見定めながら改革を進めていくわけですが、メリットとして、教員の時間確保だけが先行してしまうと賛否が出ると思われます。そこで、部活動に今までと違った付加価値が生まれるとか運動の機会の選択肢が増えるといった、子どもたちにとってのメリットやデメリットも整理した上で、手段を選び、月 18 時間の時間外も解消していくというストーリーを総合的に考えなくてはならないと思います。

また、教員の待遇を変えていくことも必要だと考えます。民間企業で能力がある人はそれが給与に反映されるように、教員免許という資格も含め、教員のスキルを社会が価値を見いだしてあげられたら、自然と教員になりたいと思う人が増えると思います。

(市長)

かつて優秀な人材を確保するために、人材確保法により教員の給与が高くなったわけですが、今となってはそんなに変わらないと思います。

(中島委員)

教員に必要なもののひとつとして熱い気持ちがあると思います。負けた時や、問題が解けなかった時こそ多くのことを学ぶことができるものですので、勝たなくてもいいんだ、失敗できてよかったと思えるような、そういったところを評価できる仕組みができればと思います。先生は、勝ちにこだわらなくなることで冷めてしまうのではなく、その評価の部分で熱い気持ちを持ち続けてほしいと思います。

(市長)

教育によって人をどうやって育てるのか、何を育てるのかを考え、生きる力を育むことは日本全体の課題だと思っていますが、そういった視点での人づくりというものを豊橋でできることはぜひやっていきたいと考えています。日本の教育にける予算は本当に低いです。さきほどの教員の待遇の話でもそうですが、教育にお金を使わない国は減んでしまうと思っています。舵を切らなければ将来がないのではと危機感をもっています。

(内浦委員)

保護者としては、部活動はあってほしいと以前は考えていたのですが、今は何より先生が健康で子どもたちのためにいい授業をしてくれることが一番であると考えようになりました。今回の総合教育会議のように、なぜ教育委員会だけではなく市長を含め行政側と一緒に議論するのかを考えると、教育委員会だけで決めるならば先生の立場に立って部活動はやる必要がないという話で終わっていいのですが、豊橋が子育てしやすいまちナンバーワンを目指すのであれば、行政がそれをフォローするために新しい施策を用意するというセットの形で考える必要があると思います。

以前、のびるん de スクールの導入時にも考えていたことですが、豊橋には図書館や自然史博物館など質の高い教育機関がたくさんある中で、インターンシップのようなお手伝いの機会がとても少なく、もったいないと思います。現在、若年者の公共機関の利用が減少し、その影響か予算の減少にも悩まされている中で、もっと気軽に若者が職員のお手伝いをしたり、利用者と一緒に何かしたりするような制度で、土日の単発で終わるようなものではなく、学校単位で連携して本格的にやれるような仕組みを市側で整えていけるといいと思います。

また、豊橋は女性の転出が多く、特に独身女性の割合が高いのですが、子どもたちに豊橋にかっこいい大人がいることを見せなくては、数年後には転出してしまうこととなります。そういった点でもアピールできる場となればいいと思います。

さらに、県内の女性の経営者や理系の女子が少ないと言われていますが、社会活動意識を高めたり、スポーツや芸術に限らず地域を知ったりすることができ、キャリア意識の醸成ができるような全方位的な社会活動参加型の制度が受け皿としてあるといいと思います。

(渡辺委員)

教育は勉強だけではだめで、社会に出るために必要な力を身につけさせなければいけません。

(内浦委員)

郷土愛を育てるためには、郷土の歴史を授業で教えればいわけではなく、かっこいい大人が目の前にいることや美味しい物があることが大事です。

(市長)

女性が選ぶ、戻ってきたいと思えるまちであることが非常に重要だと思います。職場や子育てなどいろいろな要因がありますので、産官学が連携して施策を進めたいと考えています。

さて、本日は活発な議論をしていただきました。部活動のことや教員が子どもたちと向き合うことができる時間をどう確保していくかについては、教育委員会を中心に市全体で考え、豊橋全体の教育の質を高めていきたいと思っていますので、今後ともよろしく願

いたします。

連絡事項

- ・今後の協議事項
- ・次回開催日程 令和3年8月18日（水）15：00～

（教育部長）

以上で、令和3年度第1回豊橋市総合教育会議を終了します。ありがとうございました。